

教 育 作 品 紹 介

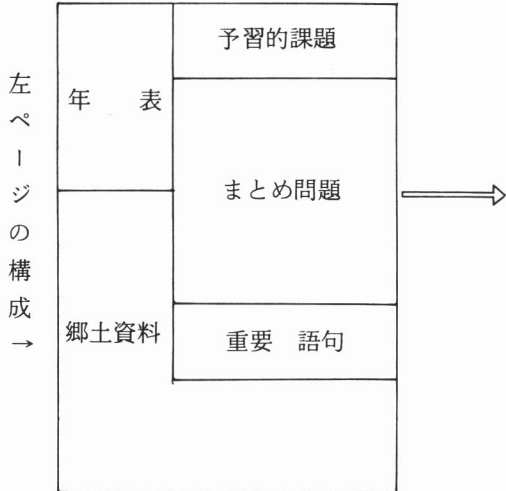
＝ 社 会 科 学 習 ノ ー ト と 副 読 本 ＝



←『中学社会科歴史』表紙

県下の学校や地域で社会科学習ノートや副読本が作られている。それぞれ、地域素材の教材化が図られ、学習活動に効果的に活用されている。

ここに紹介した、いわき市中学校教育研究会社会科研究部編集の『中学社会科歴史』もその好例である。



4. 平安の都と貴族の政治③

—古代国家の展開と東アジア—

<p>887 藤原基経白となる 894 道隆使を停止する 985 藤原が住生要職を奪 く このころ枕草子・源 氏物語・栄華物語が できる このころ末法思想が 高まる 1053 平家隆盛貴族である 院政はじまる 1086 このころ源氏物語繪 巻・平家物語 1124 中華寺の金色堂で ある このころ信長山越紀 絵巻、鳥獣戯画で ある 1156 藤元の乱 1159 平治の乱 1160 白河阿弥陀堂</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>国風文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国風文化が発達するようになった社会的な背景を考えてみよう。 ②国風文化を特色づける一つに女性の文学者の進出が目立つが、その原因となった社会的背景を考えてみよう。 ③藤原に権を浄土信仰の代表的なものをあげてみよう。 ④白河の阿弥陀堂の由来を調べ、浄土信仰の広がり考えてみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>浄土へのあこがれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①894年()の停止によって日本の風土や生活感情に合った文化が生み出された。これを()という。 ②貴族の住まいは、美しい庭園をとり入れた()であり、女子は()であった。 ③繪巻では、風俗を題材に()が()の中心になる()が()特有名である。 ④国風文化を生み出す上で大きな役割をはたしたのは()文字の発達である。紀貫之らが編纂した()紫式部の()、源少納言の()などは、この文化を代表する作品である。 ⑤仏教の上では、今まで()や()などが信仰されてきたが、社会不安が高まるにつれ、あの世で()を願う()信仰が盛んになった。 ⑥念仏を唱え()にすぎると、死んだのちに()浄土に生まれかわることができると信じられるようになった。 ⑦浄土へのあこがれの結果は、平等院の()とか、中尊寺の()といった建築物がつけられた。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>郷土資料</p> <p>白河阿弥陀堂</p> <p>浄土教では信仰のあつかったものは死後極楽浄土に行けるといわれ、貴族の中にはこの世の中でこの極楽浄土の再現をこころみるものが現われました。</p> <p>藤原朝のように葛山や泉木を引き、庵をつくり、阿弥陀仏を安置する阿弥陀堂が盛んにつくれるようになった。</p> <p>特有名なのは、藤原朝の平家隆盛が建てたものでありますがやがて地方の豪族にもこの信仰が行きまわり、地方の豪族の間でも作られるようになり、東北では平泉の中尊寺が有名である。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>①藤原道隆 ②十二単衣 ③大和絵 ④古今和歌集 ⑤源氏物語 ⑥枕草子 ⑦平等院鳳凰堂 ⑧中尊寺</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>白河阿弥陀堂は12世紀の平家隆盛が奥州平泉の藤原朝の貴族豪族が、阿弥陀(または救世もという)のいしを所て建てられたといわれています。</p> <p>この阿弥陀堂の庭園のつくりは、平家隆盛が建てた庭園のつくりにならっており、仏像は大小の差こそあれ、中尊寺の中央棟、つまり唐風をまっとうする種の仏像と、まったく同じ彫刻といっさきつあえりません。</p> </div>
---	---

↑ 左ページの一例

B5判。上下2分冊に構成され、上は1年、下は2年用として編集されている。
見開きの右のページは横野を入れノートとして使用され、左のページには単元毎に、関連する年表、郷土資料、予習的課題、まとめ問題、重要語句がまとめられている。

昭和58年10月13日印刷
昭和58年10月17日発行
発行所 福島県教育センター
福島市瀬上町字五月田16
〒960-01 ☎ 53-3141
編集兼 舟 山 昇
発行人
印刷所 ㈱ アート印刷
☎ (0245) 23-4475